

## 特 集

## 2000年大会学術講演会発表論文要旨

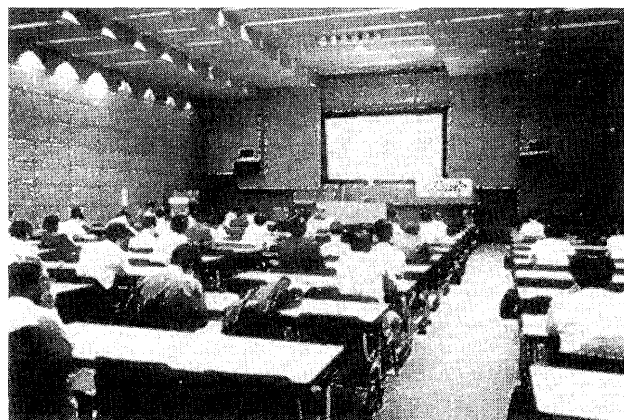
## 2000年大会学術講演会(第11回研究発表会)

本会の重要な活動項目のひとつである学術講演会(第11回研究発表会)が10月5日・6日の2日間、東京・田町の建築会館ホールで開催される。発表項目は、「複合・改修・施工」「はく離・浮き」「計画」「VOC(揮発性有機化合物)」「塗料」「汚染・光触媒」「新素材・試験方法」で、全52題の研究成果が報告される。

今回報告される論文52本を含め、トータルで1374本を数える。発表される論文は昨年同様国立情報学研究所(4月に学術情報センターから改称)に登録し、インターネットで閲覧できるようになる。

■国立情報学研究所 <http://www.nii.ac.jp/index-j.html>

■電子図書館サービス <http://els.nacsis.ac.jp/>



◆会場風景(昨年)

## '00大会学術講演会論文要旨

## 1101 塗り床材のすべり性評価試験機の開発

本研究は快適な居住性が得られる塗り床材を設計する目的で取り組んでいる。床用塗膜および被塗物を含めた複合体を対象にするべきであるが、すべり性の要因は複雑であり、問題解決を容易にするためにまず、床用塗料のみを対象とし、塗膜表面でのすべり性を制御するための必要な考え方を材料物性の面から提案したい。すべり性機構の解明には塗膜バルクの粘弾性挙動からの解析が有効と考えられる。そこで、すべり抵抗力の温度依存性が測定できる試験機を設計、試作した。すべり抵抗力に及ぼす試験条件の影響を調べ、得られた結果より目的に合う試験条件を検討した。

○坪田 実(職業能力開発総合大学校)／小野 勝(神奈川県立産業技術短期大学)／三角知大(株シミス)／戸口吉春(川越理機製作所)

## 1102 建築床スラブ下地コンクリートの表層部の性能改善

筆者らは、コンクリート床スラブの表層強度改善を目的として開発された従来の真空処理工法(従来工法)の問題点を改善し、建築分野の軟練りコンクリートにも適用可能な新たな工法を提案(提案工法)することを目的として一連の実験を行ってきた。本報では、広範囲な強度レベルのコンクリート試験体について、ブリーディングなどによって生じる鉛直方向の強度分布を調べるとともに、提案工法による改善効果を検討した。また、実際の施工現場で生じる床スラブ上の位置による表面硬度のバラツキを調べ、提案工法によってこのバラツキがどの程度まで抑えられるかを検討した。

○畑中重光(三重大学)／和藤 浩(三重大学)／山本景司(三重大学)／村松昭夫(株建和)／山口武志(山口技研)